

第 66 回 日本唾液腺学会総会・学術集会報告

会 長：吉垣純子（日本大学松戸歯学部生理学講座）

副会長：岩井 大（関西医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）

2022年11月26日（土）に、第66回日本唾液腺学会総会・学術集会を国際ファッションセンタービル（東京都墨田区）にて開催いたしました。昨年に引き続き、現地会場とWEB配信を併用したハイブリッド形式で行いました。おかげさまで、115名（現地68名、オンライン46名、オンデマンド1名）と数多くの方にご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。唾液および唾液腺を研究テーマとする多分野の研究者が一堂に会し、活発な意見交換や情報共有ができたと思います。参加者の皆様、関係者の多大なるご協力に深く感謝申し上げます。



今集会の特別講演には、日本唾液ケア研究会理事長も務められている槻木恵一教授（神奈川歯科大学歯学部病理・組織形態学講座環境病理学分野）をお招きし、「唾液腺を含む臓器間ネットワークの形成とホメオスタシス」と題したご講演をいただきました。槻木先生は唾液腺由来のBDNFが脳に影響を与えることを発見し、「唾液腺-脳相関」の概念を提唱されています。口腔だけでなく脳を始めとする全身における唾液腺の役割に着目したご講演内容で、今後の唾液腺研究を広げる可能性を示唆していただきました。



大会長企画シンポジウムとして、「唾液分泌障害の分子機序～新規治療法を目指して～」をテーマとして、第一線で活躍されている4名の先生方に講演をお願いしました。佐藤寿哉先生（北海道医療大学歯学部口腔生物学系生理学分野）「糖尿病に伴う唾液分泌障害と副交感神経性血流増加反応との関連性」、松本直行先生（鶴見大学歯学部病理学講座）「高血糖による酸化ストレスを介した新たな唾液腺組織傷害の成立機序と抗酸化療法の可能性について」、皆木瞳先生（岡山大学大学院医歯薬総合研究科・細胞組織学）「口腔乾燥症の層別化に基づく新たな治療戦略」、安原理佳先生（昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門）「唾液腺再生にむけた筋上皮細胞の可塑性制御の分子機序」と題して、最新の知見をご報告頂きました。



また、企業共催ランチョンセミナー（アース製薬株式会社共催）として、阪井丘芳教授（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室）から「COVID-19 と唾液腺～ドライマウスとコロナ対策から偶然生まれた革新的な口腔ケア用品の開発～」と題してご講演頂きました。感染症への予防対策において唾液腺研究が果たす役割の大きさをあらためて教えていただいたと思います。



一般演題は、「基礎的研究」13題、「臨床的研究および病理診断学的研究」12題、「症例検討」5題の計30題と、例年以上に多くの申し込みをいただきました。その中から学会奨励賞（45歳以下）として、「基礎的研究」部門から行森茜先生（昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門）「ChIP-seqを用いた胎生期マウス顎下腺組織における Foxc1 による発現制御遺伝子の網羅的解析」, 「臨床的研究および病理診断学的研究」部門からは佐野大佑先生（横浜市立大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）「オルガノイド培養技術と Patient-derived xenograft モデルを用いた唾液腺癌モデル作製」が選ばれました。学会賞受賞に相応しい素晴らしい発表でした。奨励賞以外の発表もいずれも興味深い内容であり、会場では活発な討議が行われました。唾液および唾液腺研究の重要性を研究者同士で再確認する良い機会となりました。

また、総会では、日本唾液腺学会役員の新体制として、以下の先生方が承認されましたので、よろしくお願い致します。

- 理事長：長尾俊孝
- 副理事長：阪井丘芳
- 総務理事
常務理事：岩井 大
理 事：天野 修, 多田雄一郎, 美島健二
- 学会運営理事
常務理事：吉垣純子
理 事：谷村明彦, 湊 宏, 矢ノ下良平, 山村幸江
- 財務理事：浦野 誠
- 事務幹事：中黒匡人
- 監 事：岡本美孝

最後になりましたが、本学術集会の開催の機会を頂きましたことに深く感謝致します。次回、第67回学術集会は、谷村明彦教授（北海道医療大学歯学部口腔生物学系薬理学分野）が会長を務め、2023年11月25日（土）に同じく国際ファッションセンターで開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

